

商品情報

フルゲートフォルダー(TLU-10型(S/M/L))がモデルチェンジ!(09年9月1日より)

■作業しやすい ひろびろフロア!

2枚折れフロアプレートの長さ・有効長がより長くなりました。
(TLU-10M・TLU-10L)

	フロアプレート	
	長さ	有効長
TLU-10M (4~7トン車)	●1,570mm 従来比 +20mm	●1,285mm 従来比 +55mm
TLU-10L (4~7トン車)	●1,570mm ●1,670mm(オプション)*	●1,285mm ●1,385mm(オプション)

*「渡し板機構」付き



■フロアの見た目がスッキリ!

フロアプレートを開閉する補助スプリングがトーションバー方式になりました。

■ゴム製防塵リップでスライドレールの滑らかさキープ!

格納用スライドアルミレール下部にゴム製防塵リップを追加。レールへの粉塵侵入を防ぐことでスライド機能のスムーズさを保ちます。

■安全な位置でしか格納できない

「誤操作防止機能付きフロアプレート」

制御方法の改良により、格納位置より高い位置でフロアを折りたたんだ場合には格納できないように誤操作防止機能を追加。さらに安全・安心に配慮した仕様になりました。

■ウィング車 寒冷地用「スノーパッケージ」(09年8月24日より)

■雪国のお客さま必見

雪国でも安心の寒冷地用装備をスノーパッケージとしてまとめ、新規設定しました。

防雪プレート※1	キャンバスシートフロント取付部の隙間から庫内への雪侵入を防止
防雪ガスカート※1	結氷などによる操作スイッチの連結を防止
フタ付きウィング操作ボックス(SUS製)※2	結氷や融雪剤による下回り配線の断線などを防止
下回り配線のコルゲートチューブ巻き※2	結氷や融雪剤による下回り配線の断線などを防止

※1 ウィング車(トラック)のみ対応。 ※2 ウィング車以外での温度管理車・バン型車での対応も可能。



防雪プレート フタ付きウィング操作ボックス(SUS製)

■温度管理車室内用「LED室内灯(24V)」(09年9月22日より)

■省エネ・高寿命のLED室内灯を新規設定

冷蔵・冷凍車の室内灯に省エネ・高寿命のLED室内灯を新規設定。LED灯は、温度変化による「照度」の低下がほとんどないため、冷蔵・冷凍車において、より円滑な庫内作業を可能にします。

既にお持ちの車両でも交換可能な交換専用部品もご用意しております。
(LED灯本体+専用ブラケット) 09年9月末予定

	蛍光灯 (24V-8W)	LED灯 (24V-3W)
消費電力	13.0W	4.48W 約1/3
ランプ寿命	約6千時間	約4万時間 約7倍
重量	0.9kg/個	0.43kg/個 約1/2



ポトル飲料を一度の運行で大量に運びたいと考えていたユーザーとの共同開発により、この「ポトル飲料運搬トレーラ」が誕生。それまでは7トン積トラックにより一回で通常サイズの瓶を約8千本運ぶのが精一杯であった。しかしこのトレーラを導入したことで、より、実に2万160本、およそ25倍の量を一度の運行で運ぶことが可能になったのである。開発された昭和43年は、日本がGNP(国民総生産)において西ドイツを抜き世界第2位に躍り出た時代。効率を追求する潮流の真っ只中において、日本フルハーフが製造したこの専用トレーラは、人々の生活を陰から支えていたのである。



フルハーフヒーローズ
1968年(昭和43年)
ポトル飲料運搬トレーラ

日本フルハーフグループの全国ネットワーク

フルハーフはISO9001/14001の認証を取得し、環境にやさしく、高品質の製品と高信頼のサービスをお届けしています。

営業品目: アルミバン、保冷・冷凍車、ウィンググループ車、各種トレーラ、各種コンテナ、各種部品、修理
本社: 〒243-0281 神奈川県厚木市上成郷上ノ原30034 046(285)3111(代)
東京部門: 〒140-0001 東京都品川区北品川1-20-9(ダヴィンチ品川ビル) 03(3474)5720(代)
(東京事務所)
生産拠点: 苫小牧/厚木/葛飾/岡山/佐賀
販売拠点: 北海道 011(723)8750 / 盛岡 019(672)5472 / 仙台 022(783)8831 / 新潟 025(243)0520 / 北関東 048(661)9051
東京 03(3863)8011 / 多摩 046(284)2555 / 神奈川 046(284)2107 / 静岡 054(285)3397 / 北陸 076(232)5588 / 名古屋 052(532)7051
阪神 06(6390)8257 / 岡山 086(9)4300 / 広島 082(262)2005 / 四国 087(863)6078 / 九州 0952(53)8110 / 南九州 099(284)1634



URL <http://www.fruehauf.co.jp/>

ボディとハートのコミュニケーションペーパー 日本フルハーフ

FRUEHAUF Fan

2009 Autumn Vol.9

[フルハーフ・ファン]

排出ガス規制の影響を受けないから長期運用が可能

トレーラ方式検診車

医療法人社団 東京誠学会



医療法人社団 東京誠学会
企画運営室長 榎本 茂樹 氏

医療法人社団 東京誠学会

検査機器を備えた医療機関が近くにない地域住民や企業向けに、医療検査機器を搭載した検診車で出向く「巡回検診」を積極的に推進。多くの人々に受診の機会を提供している。また、連携施設である医療法人社団 誠会の白鬚橋クリニック(東京都墨田区)が、2009年1月にNPO法人マンモグラフィ検診精度管理中央委員会より「マンモグラフィ検診施設画像評価認定施設」として認定されるなど、特に信頼性の高い医療検査機関として精力的に活動。検査によって治療が必要だと分かった場合も近隣の系列病院で迅速なケアを行うなど、受診者にとって心強い医療体制を整えている。

概要

設立: 2008年6月
住所: 東京都墨田区東向島2-36-6

連携施設である白鬚橋クリニック

診療科目: 健康診断/特定検診(メタボリック検診)/各種検診・人間ドック/
睡眠時無呼吸症検査/人工透析





理事長 東京都立会
企画推進部長
榎本 茂樹氏



専任理事 東京都立会
東京検査センター
宮崎 香氏

日本フルハーブにおまかせ!

Request リクエスト

レスポンス Response



日本フルハーブ株式会社
開発部 第三グループスタッフ
内田 昌宏



日本フルハーブ株式会社
トレーラ営業部
竹永 拓也

時代の要請に応え、 革新的なトレーラ方式検診車を企画・導入

私どもは従来から、マンモグラフィによる乳がん検診の受診率を向上させることを目的とした「東京都マンモグラフィ整備事業」を活用し、皆さんもご存知のようなバスタイプの検診車の導入を検討してきましたが、様々な面を考慮した結果、全国で初めてとなるマンモグラフィおよび胸部X線撮影も同時に行えるトレーラ方式検診車を導入しました。移動検診車は、企業単位で行う出張検診や病院の検査機器入れ替えに伴う臨時の検査施設として有用なのですが、バスタイプの場合、ネックが散見されていたのも事実です。そこでそれらのネックを解消し、検診車の次世代スタンダードとなるべく今回のトレーラ方式検診車を企画・導入しました。

このトレーラ方式検診車はその革新性から大変反響が大きく、実際に東京都庁に向い関係各所にお披露目し、東京都報にも記事が掲載されるなど、新しい検診車として大きな期待を背負っています。

トレーラ方式検診車の特長

●排出ガス規制の影響を受けず、これまでより低コストで長期的に運用できる

従来のバスタイプの検診車の場合、自動車の排出ガス規制が強化される度に車両自体は使用できなくなりやすくなりますから、新たに車両購入と機器載せ替えコストが発生していました。トレーラ方式なら、トラクタヘッドを変えるだけでトレーラ部分はそのまま使用できますので、コスト面で圧倒的に有利ですね。

●高いメンテナンス性で保守費用を低減、高い稼働率を確保

医療検診は、言わば社会的使命を帯びた公益性が高いものですから、故障の予防・迅速な修理によって予定通り稼働することが、大変重要と言えます。トレーラ方式検診車は①発電機の室外設置により、日常的な整備が行いやすく、②市販空調機を採用しているため、極端に言えば万が一故障しても、「買ってきて取り付けるだけ」で通常通り稼働することができます。



外付けの発電機



市販空調機の室外機

●広い検査スペースを確保

駆動に必要な部分がトラクタヘッドに集約されているので、トレーラ側は検査スペースとしてできるだけ広く使用することができ、受診される方に違和感や不快感を感じさせることもありませんし、検査技師も作業がしやすいスペースとなっています。



病院と見まがうようなやさしい雰囲気検査スペース

この車両が搭載する検査装置

最新の検査機器が搭載されており、マンモグラフィ検査装置を持つ病院が少ない自治体などからの要請で検査を行っています。



マンモグラフィ撮影装置



胸部X線撮影装置



X線CR (プロフェクトCS)

- 1 車両制限令の規制を受けることなく、自由走行できるようにしたい。**
→ 連結全長を12m以内、連結総重量20t以内に収めることで、自由に走行できるようにしました。
- 2 受診者と検査技師が、効率よくスムーズに検査できるレイアウトにしたい。**
→ 空間を最大限に活かせる室内レイアウト（間仕切り）と左右バランスを考慮したフレーム設計を行いました。
- 3 放射線を遮断するための鉛板を入れるので、ボディには十分な強度が欲しい。**
→ ボディのポスト増し、ボウルフの強化で必要な強度を確保しました。
- 4 検査機器はデリケートな精密機器のため、振動や衝撃を少なくしたい。**
→ トレーラはトラクタと同様にエアサスペンションを採用しました。

日本フルハーブとして初めての試みとなった「トレーラ方式検診車」今後はMRI・CT・胸部検査車など、様々な検診車へ展開していきたい。通常、私たちが一般的に扱う貨物車両は、物流というかたちで社会を支える役割を担いますが、検診車は人々の健康を支える役割を担う車両です。普段にも増して、この車両の持つ意義の重大性に身が引き締められました。また、貨物車両についての主な法的要件は「保安基準」と「車両制限令」ですが、検診車の場合それだけでなく「医療防疫車の構造要件」や「医療機器の法的要件」もクリアする必要があり、私どもが従来持っている製造ノウハウだけでは、実現不可能だったと言えます。そこで製造にあたっては、設計段階から全般を通し共栄テクノ(株)様、医療機器設置については医療機器メーカー様、トラクタ改造などの登録は萬栄商事(株)様など、たくさんの方々との綿密な打合せを行って、この「トレーラ方式検診車」を実現することができました。今後は、これら今回の経験をもとに、様々な検診車の製造を手掛けていきたいと考えています。

- 1** 車両全長はどこでも走れる12m以内
- 2** このレイアウトを実現するため、間仕切り、左右バランスを考慮して設計
- 3** 強度を確保する外板のリベット
- 4** デリケートな検査機器を守るエアサスペンション

トレーラ方式検診車の実現のためプロフェッショナルが集結!

技師としての視点から、使いやすさなどへの提案を行いました。 放射線技師 菅野 貴宏氏	車両運行を担当しています。 有限会社ジャストコーポレーション 代表取締役 藤崎 修吉氏	車両登録など法務手続きを行いました。 萬栄商事株式会社 代表取締役 杉山 悟氏	CT・X線室の設計施工のプロとして、この検診車の企画を行いました。 共栄テクノ株式会社 中村 行宏氏	共栄テクノ株式会社 坂本 真氏
--	---	---	--	--------------------